



森ボラ 通信

第75号 2008年8月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

◆ 活動報告・・・ホダ場作り(7月28日澄川・参加者18名)

今年の4月末に1ヶ所は谷底に1ヶ所はテント横で植菌作業を行い仮伏せしておきました。谷底ホダ場ではシイタケ、ナメコ、ヒラタケ、クリタケ、タモギダケをそれぞれ30本計150本のホダ木を3ヵ月を経て仮伏せ状態から合掌作りの本伏せ組を完了しました。



それぞれの駒菌の適用樹種としてシイタケとヒラタケにはミズナラ、ナメコには樺とイタヤカエデ、クリタケにはクリの木、タモギダケにはヤチダモに植菌しましたが、菌回りの状態を見るとシイタケとナメコが少し進んでいるような感じはしますが他のホダ木も概ね順調に生育しているように思われます。もう1ヶ所はテント小屋の脇の窪地にシイタケのホダ木70本を合掌造りの本伏せ組をして、寒冷紗で覆い乾燥を防ぐ手立てをしました。



シイタケとタモギダケとテント横のホダ木にはキクラゲのような黒いキノコが見られます。この正体はゴムタケと言ってシイタケのホダ木に群生する害菌ですが、毒キノコではなく食べることが出来ますので一度試してみてもいいです！

澄川を訪れた時にはこの2箇所に足を運び、是非菌回り状態を観察してください。ついでにホダ木を叩いたり、手のひらで音を発して刺激を与えるとキノコのつぼみ(傘の部分)の成長を促しますのでやってみては如何ですか(同様にホダ木の天地返しも成長を促進させます)。

また水を掛けたり、漬けたりしても成長を促します。…キノコ知識 (記、市山)

キノコ知識:

植菌したホダ木を水に浸すと、窒素(植物が生命を維持していくために絶対必要な成分)枯渇の飢餓状態に陥り「自分たちはもう生きてはいけない」と感じて子孫(孢子)を残そうとつぼみを作り始めます。

◆ 伏せ焼きによる炭焼き報告(8月8日-9日澄川環境緑林・参加者14名)

会員、杉本さんの遊び心に火を付けたのか、伏せ焼きをやって楽しもうとキャリコには燃材にかぶせるジャバラトタン板2枚と土台に使うブロック2個が準備されていました。

場所は奥の小屋から少し先の歩道に面した所で、掘りやすく類焼の心配のない場所が選定されました。タテ、ヨコ2mと1m、深さ30cm(煙突側の深さは登り勾配のため15cm)の穴を掘り、180cm×10cmの敷き木用の丸太2本をそれぞれ2個のブロック(風の吸入口側)に載せて窯は出来上がりました(所要時間30分)。炭材はイタヤカエデ(40cm×7cm前後)約50本を敷き木の上に重ね置きをして煙突をセットし、その上に燃材(ガンビと切れ端材)を山盛り積み上げ、トタン板で覆い盛り土をして伏せ焼き炭焼き窯の準備は終了。(→つづく)

参加者の見守るなか杉本さんの火入れ式。

一生懸命扇いでも何故か火の回り方が不自然で失敗かと、原因は排煙装置？・・・煙突のセットの見直しをした所なんと煙突の中に丸めた新聞紙を発見。いとも簡単に解決。

着火時間は1時間遅れの14時30分。その後は煙の勢いを保ちながら白い煙、青い煙、透明に近い煙へと変化。21時30分に煙突を外し通風口に土を被せ密閉終了（点火から火止めまで7時間）。翌日へ期待を膨らませて夢の中に・・・

油の乗った秋刀魚で朝食を済ませ、8時30分に多少盛り土は温かかったが炭の取り出し作業を開始したところ、焼けぼっくりに火がついた様に再度燃え出しました。

やはり焦っては事を仕損じることを肝に銘じて再度、土を被せ冷えるのを待って、13時に出炭を終えましたが、初めての伏せ焼きにしては炭の状態は満足のいくもので今後の伏せ焼き体験に役立つと確信いたしました。（記、市山）



◆ 失敗に学ぶ(炭化炉による木炭作り・於、澄川環境林)

8月8日(金)～9日(土)、晴天のなか、不安と期待を林内に満たし9:00分、炉に点火する。

9:30分、炉上部の焚き付けがほぼ燃え終える頃上蓋をする。若干、煙の出が弱いので最上部の蓋から余分にとった炭材と焚付けの追加をする。間もなく白煙が勢い良く出だす。

○杉本、津金、荻田、釣井、山中で炭化炉の煙の観察と炭化炉を管理する。

○酒井、高野、湯澤、和田、市山で除伐作業に従事する。

以下は今回の木炭作りが成功した観察記録を簡記した。

今回の炭焼き作業が成功した原因の一番に挙げられるのは、前回(7/31～8/1)の大失敗の教訓に学び、○基本に忠実に作業を進めたこと。○作業分担を明確にし、責任を持って進めた。○分担ごとに事象を克明に観察、その状況を詳細に記録する。等細かい指摘事項は多々あるが、1回でも多く回数を重ねる事が上達の秘訣ではないかと思う。（記、山中）



<<炭化作業日誌>>

日時	炭化作業及び観察事項
8/8(金) 晴	
9:00	炭化炉点火
9:30	炭化炉上蓋をする(煙の出が悪いため炉最上部の蓋から炭材と焚付けの追加をする)
10:15	炭化炉最上部上蓋をする
10:30	炭化炉4本の煙突から勢い良い白煙が出る
11:00	白煙にかすかに薄黒い煙が混入する
11:30	排煙位置のローテーション(1回目)
12:30	排煙位置のローテーション(2回目)
13:30	排煙位置のローテーション(3回目)
14:30	排煙位置のローテーション(4回目)北側1箇所吸入口の半分閉鎖
15:30	排煙位置のローテーション(5回目)→日帰り組帰宅
16:22	北側の吸入口と右隣り吸入口の閉鎖
16:30	排煙位置のローテーション(6回目)閉鎖部分はそのまま継続
17:46	煙が透明に変化

20:00	1箇所の吸入口を残して閉鎖
21:30	全吸入口を土で密閉、作業終了
8/9(土) 晴	
9:30	炭化炉開放、選炭・袋詰め作業
10:00	炭化炉清掃、テント撤収
※「木炭の仕上がり具合は良好で、当会 6 回目の炭焼き作業を実施したが、今回が一番の出来である」、担当責任者である酒井代表幹事の評である。	

◆ 8月8日～9日 活動報告 ヤナギ炭

ヤナギは柔らかくて軽い木(比重0.36)なのでうまく焼けるか、また炭として使えるかを調べるために移動式炭化炉にて焼いてみた。

7月31日

札幌市澄川環境林にてエゾノキヌヤナギの長さ1mで30～80φの枝条を12本ほど採集して自然乾燥しておいた。

8月8日

炭化炉一段目に写真の2束を他のミズナラ材と一緒に詰め込んだ。一束は中央の煙突近くにもう一束は外周に置いた。

8月9日 13時間の炭化後に一晩冷ましてから窯出しした。

*どちらもちょうどよく焼けていた。木口は光っている。皮部が光っているのはタール。

*ミズナラと比較すると製品は軽い。*家庭やキャンプでのバーベキュー用としてはその分着火は良いので十分使えると判断した。消し炭よりは硬い。

*粉にして土壌改良剤として使うには柔らかく便利そう。

*実用には収穫したヤナギ藁を直径30cm位の束にして1m長に切り炭化炉に詰め込み隙間にも詰め込み隙間をなくしたい。

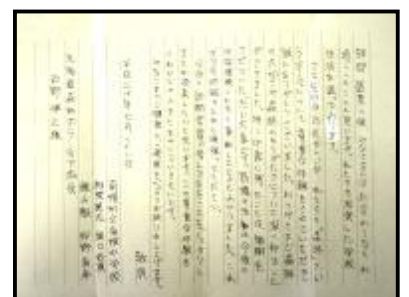
推定だが一回に200kg材を入れて製品の炭は30kg位と思われる。(記、酒井)



■ 今月の幹事会

出席者：酒井・佐野・杉本・津金・西野・棟方・和田

1. 石狩支庁産業振興部林務課主催の「森林ボランティアと創る石狩の豊かな里山モデル事業」として、3ヶ年かけて「里山の整備」、「親子森林体験活動の実践」、「PR用看板設置」「安全作業技術講習」等が企画されます。9月にはチェーンソーの安全作業・技能講習が実施されます。
2. 10月の研修旅行(2泊3日コース)参加枠に若干の余裕があります。参加希望者をご連絡下さい。阿寒湖では前田一步園見学、北見工大見学を予定しています。
3. 澄川で森林学習した南幌町立南幌中学校の校長先生と生徒からお礼の便りが届いています。



■ 活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
8月11日(月)	幹事会	7名	
8月9日(土)	澄川(2日間通し)	14名	炭焼き・ホタル観察会
8月8日(金)		14名	
8月2日(土)	アイケンの森	8名	除間伐・薪づくり
8月1日(金)	澄川(2日間通し)	16名	炭焼き・ホタル観察会
7月31日(木)		21名	
7月29日(火)	杉本邸	10名	木工
7月28日(月)	幌南の森	2名	学童支援
	澄川	16名	除伐・木工
7月24日(木)	野幌	12名	下刈り・調査
7月22日(火)	りんご園	5名	摘果
7月18日(金)	澄川	8名	炭材運搬、搬送路整備
	支笏湖	4名	下刈り・補植
	富丘小学校	6名	看板設置・ニセアカシア駆除

■ ひとこま

◆ 7月24日 野幌国有林 下草刈り 参加者12名

植える時に必ず誰かがつぶやきます

“これが林になる頃は私達は死んでこの世にいないのか”と。

でもこのケヤマハンノキの成長を見てください。植えて3年も経っていないのに4mとすくすく伸びています。

野幌は2004年に台風被害を受けて翌春からひと夏地持ちをして2005年の秋に試験植栽し翌年本格植栽したものです。森林ボランティア団体は今全国に1800ほどあるそうですが“地持ち”をする団体はそうないとほめられています。

ps:この1日で私はスズメバチの巣を3回、ウサギ、青大将と無数のやぶ蚊に出会いました。

(記、酒井)

